

農政の動き 2016年7月8日～7月13日

◇15年の水害被害額全国で約3850億円◇

2015年の水害によるインフラや建物、農業などへの被害額（暫定値）は全国で約3850億円に上ったと、国土交通省が発表した。特に9月の関東・東北豪雨の被害が7割強を占め、都道府県別では茨城県が約1560億円で最も多く、栃木県約660億円、宮城県約330億円となった。（11日）

◇「市田柿」と「吉川ナス」をGI保護制度に登録◇

農林水産省は、長野県飯田市などの「市田柿」と、福井県鯖江市の「吉川ナス」を地理的表示（GI）保護制度の対象に登録した。地域の特色ある方法で生産された産品を国が登録・保護する仕組みで農産品の登録数は計14産品となった。森山裕農相は閣議後会見で「（登録で）価格の上昇や担い手が少し増加する傾向が見られるなど、効果は着実に現れ始めているのではないかと述べ、登録数の増加を後押しする考えを示した。（12日）

◇南極のCO2濃度観測史上初の400ppm超え◇

国立極地研究所は、南極・昭和基地で観測した大気中の二酸化炭素（CO2）濃度が観測開始（1984年）以来初めて400ppmを超えたと発表した。5月14日に400.06ppmを観測し、6月の月平均濃度が400.51ppmになった。経済活動が盛んな北半球ではすでに観測されていたが、南極にも影響が及んでいる状況が示された。同濃度は産業革命前は280ppm程度だった。濃度上昇は地球温暖化の主因とされている。（12日）

◇日本人の総人口7年連続で減少◇

総務省は、住民基本台帳に基づく日本人の総人口（2016年1月1日現在）は、前年比27万1834人（0.22%）減の1億2589万1742人と公表した。減少は7年連続で、減少数は調査開始（1968年）以来、最多を更新した。出生者数は2年ぶりに増えて101万46人となったが、死亡者数は調査開始以来、最多の129万6144人だった。都道府県別では、東京都が1296万6307人で最も多く、増加率も0.67%と最高となり、東京一極集中が強まっている。41道府県は減少し、減少率は大きい県から秋田（1.29%）、青森（1.12%）、山形（0.99%）の順。このほか、外国人の人口は全国で11万1562人（5.41%）増の217万4469人となった。（13日）

◇16/17年度の世界の穀物需給月間報告を公表◇

農林水産省は、米農務省による2016/17年度の世界の穀物需給月間報告（概要）を公表した。トウモロコシの生産量は、前年度を上回るものの、期末在庫率は0.9ポイント減の20.6%と予測した。小麦は生産量が消費量を上回り、期末在庫率は0.2ポイント増の34.8%。大豆は生産量が消費量を下回り、同2.3ポイント減の20.4%と見込んだ。（13日）